

No.33

明日への扉

早世の天才・フィルチュ その系譜を受け継いで

はぎわら ちよ
萩原 千代 さん



7月に40回目の節目を迎えた、ローズダイナーでのコンサート。客席との距離も近く、演奏の合間には各テーブルを回り、アットホームな雰囲気の中に笑顔があふれる。ローズダイナーでの次のコンサートは12月2日(土)の予定。

昭和54年東京都生まれ。東京音楽大学卒業後、元・ルーマニア国立交響楽団総監督のチーキー・ボルディジャー氏に師事し、ライフワークとなる作曲家カール・フィルチュの音楽と出会う。平成20年から、かのやばら園「ローズダイナー」で定期的にコンサートを開催。(38歳)

小さいころからピアノが好きで、東京音楽大学に進学し、ピアノを専門に学びました。そして、大学で師事していた先生の勧めでルーマニアに渡って、より専門的にピアノを学びながら、現地のオーケストラとの共演などの活動を行いました。

平成21年に、ルーマニアで開催されたピアノコンクールに出場したときに、私は、のちにライフワークとなるカール・フィルチュの音楽と出会いました。コンクールの課題曲だったフィルチュの曲を弾いて、美しく、自然で素直なメロディが心に残りました。そして、他の参加者が練習で弾いていたフィルチュの「舟歌」を聴いた私は、これまでの音楽活動で体感したさまざまな感情が一気にこみ上げてきて、気が付いたらフィルチュの虜とりこになっていました。

それまでは、自分の思い描く演奏ができないときに迷い悩むことも多かったのですが、フィルチュの音楽を演奏すると、「よくがんばったね」と、私の背中を優しく押してくれるような、そんな感覚を覚えたのです。この体験で、音楽と正面から向き合う決意を新たにしました。早世の天才・フィルチュ。15年に満たない生涯で残した曲はわずか20曲程度。でも、全て私にとっては宝物です。

このころは鹿屋に住んでいた時期で、平成20年から2年間居住しまし

た。「鹿屋ならではの音楽活動を」と考えて、歴史上の作曲家が書いた「野ばら」という曲を演奏する「世界の野ばら91曲全曲演奏」を開催しました。また、海上自衛隊第1航空隊の隊歌を作曲させていただきました。

中でも、ローズダイナーでの定期的なコンサートは、私の第2のライフワークになりつつあります。ローズダイナーでのコンサートは、お客様との距離がとても近く、演奏の合間には、お客様のテーブルを回って直接お話できるので、私もとても楽しみにしています。ほぼ毎回お越しくださるお客様もいて、常連さんに会う楽しみと、「今度はどんな曲をどう紹介しようか」という、ピアノとしての矜持きんぢは、私自身の成長にもつながっています。

平成28年6月には、日本で初めてフィルチュの音楽のCDを作成しました。また、11月には2枚目のCD録音を予定しています。そして、鹿屋でのコンサートは、50回を目指してプランを立てています。フィルチュの系譜を受け継ぐこと、鹿屋でのコンサートを続けること。この2つをライフワークに、今後も音楽活動を続けていきたいです。

**秋原 千代さんが出演**
FMかのや(77.2MHz)
8月28日(月)9時5分から
(予定)